

Vol. 40 No. 4
2024. Feb



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp>/
会長 川野辺 穰
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会 広報誌編集部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail: akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail akita_ot@akita-ot.jp



OT とかけて、 料理の味つけと解きます。 その心は…

秋田回生会病院 小野寺 佑麻

思い返せば「きりたんぼ」への寄稿は、約 10 年前の新人時代に印象記を書かせていただいた以来となります。それがよもや巻頭言の筆を執っているとは…当時の自分に告げても信じてもらえない気さえます。ご挨拶が遅れましたが、今年度より理事を務めさせていただいております、秋田回生会病院の小野寺と申します。以後、お見知りおきいただけると幸いです。

さて、私が担当する「精神保健福祉対策部」ですが、精神科領域の「ヨコのつながり」を強化したいと部局内で検討を重ねております。それに向けて、県土会員の皆さんへご協力いただくこともあると思います。しかしながら、何処の馬の骨とも知れない奴へ信用を置くことは難しいと想像します（少なくとも私はそうなので）。つきましては、甚だ恐縮ではございますが、少しばかり自己像について書き綴っていきたいと思います。

まだまだ未熟な私ですが、生きていく上で 2 つのことを気にかけています。まず 1 つ目ですが、「疑う視点」です。よくよく批判的思考が本質的な課題や意味を捉えるために必要であると、学術やビジネスで話されるとされます。確かに目指すところではあります。私の場合はそれほど質の良いモノではないと認識しています。「中庸の徳」という言葉もありますが、バランス感覚を目的とした部分が強いです。人間関係や育児、ワークライフバランス、財産管理などなど、生きていく上での「ちょうど良い」を判断するのに一役買ってくれます。もちろん作業療法についても考えることもあります。「作業の可能性に潜む畏」という話はご存じでしょうか。多くの作業療法は日常生活の中で作業を可能化 (enable) することが目的になると思います。ただ、ここにこそ注意すべき畏が存在しま

す。作業ができるようになる **doing** の価値だけを目指したとき、「できるようにならなかった」場合には、存在 (**being**) の価値のぐらつきが起きます。—そんな話だったと記憶しています。詰まるところ、**enable** への傾倒には注意を払う必要があると理解しています。

そんなこんなで少し違う視点から見てみると、時に好奇心もかき立てられるのですが、そこで「ちょっとの背伸び」を試みています。これが（高じて今の身長に、というのは冗談で）2 つ目に当たるのですが、仕事内外での行動原理になっているのかと感じています。ちょっとだけ身の丈より良い服や車を買ってみたり、ちょっと背伸びして学会や学術誌で報告してみたり、といった具合です。確かにはじめは少しばかり大変ですが、努力と成長も経験できます。ちなみに「努力で人は変えられる」と信じる人は、「能力は変えられない」と信じる人よりも、（広義な意味で）成功を収めているという研究報告もあるそうです。要するに「やればできる！」というマインドが大切なのだと自らに言い聞かせている次第です。

なんともまとまりに欠く内容となりましたが、少しでも関心を持っていただけたのなら幸いに感じます。ちなみに表題の「なぞかけ」は当時県士会の新人挨拶にて披露したものです。あの時は司会者のご厚意(?)もあり、トリを飾らせていただきましたが…思えば OT 人生で初の「ちょっとの背伸び」だったように感じます。答え合わせは、今後の県士会活動などでお会いする際に声を掛けていただけると嬉しいです。

最後に1つ宣伝です。冒頭に述べた「ヨコのつながり」へ向けて、2月21日(水)17時半より意見交換会 (Zoom) を行います。経験年数や役職関係なく、気軽に参加できる企画内容です。多くのご参加をお待ちしておりますので、是非ご検討くださいませ。

※当誌がお手元に届くのが21日以降でしたら、ご参加いただいた皆様へ御礼申し上げます。



特別企画

住み慣れた地域で暮らす人々の「生活」に ウェルビーイング(well-being)を

秋田大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 作業療法学講座 久米 裕

秋田大学では秋田の地域包括ケアシステム構築を目指した取り組みの一環として、本学が保有する教育・研究・地域貢献の機能を応用した事業が推進されています。私たちが直近6年間に取り組んできたことは、認知症またはフレイル予防支援のための事業です。同事業の構成は、①生活を支える医療・福祉のプロフェッショナルを養成する現任教育プログラムの開講（看護職、介護職、ケアマネジャー、リハビリテーション専門職などを対象）、②秋田県内の自治体が主催する認知症予防事業への参画、③地元企業と連携した秋田県民に対する健康寿命の延伸や地域の活性化を目指す社会貢献活動の展開等です。先述の事業を行う専門分野は、決して「作業療法」に限定されるものではなく、あらゆる関係者がアイデアを出し合いながら協働しています。この連携から見えてきた作業療法士の

役割について、自分自身が考えてきたことを本稿で紹介させていただきます。

これまで地域事業の中で関わってきた対象は、一般的に「作業療法」の対象として示される「病气やけが、もしくは、生まれながらに障害がある人など、年齢に関係なく、日常生活に支援を必要とするすべての人…(以降、省略)」¹⁾のみならず、認知症やフレイル予防に関心がある一般健常者も含まれています。公衆衛生における大切な概念として、健康のリスクが高い人たち向けのハイリスクアプローチと現在健康リスクがそれほど高くない人たち向けの行動変容に焦点を当てたポピュレーションアプローチがあり²⁾、私たちの取り組みは後者に相当する対象を含みます。そのため、秋田県内の現地に赴いて、自らの健康を維持するための暮らし方について地域の人々に問い、それらの語りを傾聴する中で、その地域社会や文化に根付いた意味のある「作業」が発見されることがあります。たとえば、山間の某地域では山菜採りが暮らしに根付いており、山菜を収穫するために山を登ることから、収穫した山菜を加工し販売するための作業遂行、または近隣住民と収穫した山菜を分け合いながら交流するまでに至る一連のプロセスでは、フレイル予防のための大切な3要素（身体的、精神・心理的、社会的側面）がすでに網羅されているのです。しかしながら、先述の事例だけに留まらず、地域住民の多くは身近な意味のある「作業」に気づいていない場合があり、対話の中でその「作業」の意味に気づきます。加えて、通いの場を介したフレイル予防のための基本的知識や実践法の習得はその意味のある「作業」に+αの付加価値を与え、住民個々の行動変容が促されていきます。

以上のような経験を通して、住み慣れた地域で暮らす人々の「生活」にウェルビーイング(well-being)としての気づきを与える役割が私たち作業療法士の強みであると実感しました。これは人の「作業」に着目している作業療法ならではの予防的アプローチです。作業療法士はすでに地域包括ケアシステムへ参画しておりますが、世間一般が求めるニーズに対応しながら、その中で作業療法の役割や強みを明示していく必要があります。今後は県士会会員同士のコミュニティを大いに活用しながら、本稿の表題について語り合っていきたいと思えます。

参考資料)

- 1.一般社団法人 日本作業療法士協会. 作業療法ってどんな仕事?.
URL: https://www.jaot.or.jp/ot_job/ (最終アクセス年月日: 2024年1月4日).
- 2.ジェフリー・ローズ 著. 曾田研二, 田中平三 監訳. 予防医学のストラテジー 生活習慣病対策と健康増進. 東京, 医学書院, 1998.



～広報誌編集部長から会員の皆様へのお願い～

日頃より広報誌「きりたんぼ」をご一読いただきまして、誠にありがとうございます。また、会員の皆様には急な原稿依頼にも関わらず原稿執筆いただきまして、併せて感謝申し上げます。

さて、この広報誌「きりたんぼ」はご存じの通り、会員の皆様から原稿をいただくことで成り立っております。これからも広報誌「きりたんぼ」を継続していくためには、会員の皆様からのご協力が必要不可欠となります。ご迷惑をお掛けしますが、今後原稿依頼があった際は、是非ご協力くださいませうよう宜しくお願い申し上げます。

広報誌編集部長 児玉 達則

トピックス

元気があればなんでもできる！ イベント開催報告 & 2024 年はどんな年になる？

社会福祉法人北杜 障がい者支援施設ほくと 若狭 利伸

皆さん、こんにちは。障がい者支援施設ほくとの若狭利伸です。本年も様々なトピックスを発信していきます。よろしくお願いいたします！

最初に、12月2日(土)に秋田港クルーズターミナルで開催した、県内の特別支援学校・特別支援学級に通う小学生を対象とした職業体験イベント「しごとーいんく」の報告をします(9月のきりたんぼ掲載時から開催日変更)。イベント当日は、27名のお子さんが参加し、70名以上のボランティアスタッフ、15社の協賛企業、4社の運営協力企業、秋田県教育委員会の後援、沢山のご協力があり開催できました。ありがとうございました！

参加した子どもたちは、こどものみなとまちの入港審査を終えると、保護者と完全に離れた状態で仕事スタート。銀行、税務署、コーヒー屋さん、雑貨屋さん、エステサロン、リサイクルセンター、eスポーツ、AIアート工房、和楽器演奏、お笑い道場などの数ある職業ブースから好きな仕事を選び、「とーい」というお金を稼ぎます。1つの仕事が終わったら、税務署で納税(街に税金が一定数納められると街が発展してイベント発生)⇒新しい仕事にチャレンジ⇒稼いだお金で好きなものを買入という流れもあり、子どもたちに「働く」や「お金」の大切さを楽しく学んでもらう機会になりました。

初開催となりましたが、ブース内の作業工夫、必要に応じて専門職がマンツーマン対応するなど、障害のあるお子さんでも安心して参加できる空間を実行委員メンバーで作ることができました。私はeスポーツを担当したのですが、お子さんの障害・特性に合わせて入力機器を変えたり、プレイヤーとしてのマナーを学ぶ機会を作ったり、お話が得意なお子さんに試合の実況を任せてみたりと(笑)、OTらしさを出せたのかなぁと思います。そして終了後のアンケートは、お子さん・保護者のイベント満足度がなんと…100%！嬉しい限りです！今回参加が叶わなかった方も、ぜひ次回は「しごとーいんく」にご参加いただけますと幸いです。今年は新しい職業ブースも作ってみたいので、皆さんからの斬新なアイデアもお待ちしております。



さて、新年を迎え 2024 年はどんな年になるでしょうか。先日ご縁があり、とある福祉の研修会で講演をさせていただいたのですが、そこで話題になったのは【福祉業界の人がいない問題】です。ここで

いう“人”は、“働く人”はもちろん“サービスを利用する人”です。それに伴う高齢者施設や幼稚園・保育園閉鎖といった話も耳にします。

皆さんご存知の通り秋田県は“消滅可能性都市”の上位にランクインしていますが、その中で「選ばれる良いサービス」を提供するにはどうしたらいいでしょうか？基本的なサービスの質はある程度同じように担保されている必要があるものの、それぞれのサービスの色は金太郎飴化してはマズイと思います。今年は診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の改定もあり、私たち OT にとっても変化のある年になりそうです。これまでやってきたこと + α で、新しい挑戦や視点を広げることもキーポイントになるでしょう。チャレンジにはリスクは付き物です。私自身も飛躍の年にできるよう頑張ります！

ちなみに…前月号で書いた新しいコミュニティですが、新年度から試験的にスタートしてみようかなと考えています。Zoom？Google Meet？メタバース？年に数回リアル開催？プラットフォームは検討中ですが、少しずつ形にしていけます。お楽しみに…！（一緒に企画して下さいませ）



職場紹介



社会医療法人 明和会

中通総合病院

加藤 真澄

当法人は「いつでも、どこでも、だれでも」患者さんの立場に立つ親切で信頼される良い医療と、地域貢献を掲げ、当院、中通リハビリテーション病院、大曲中通病院の 3 病院の他、歯科診療所、訪問看護ステーション、健診施設などを有し、予防から治療、リハビリ、在宅医療まで、包括的な医療を追究しております。

中通総合病院は法人の基幹病院として、秋田市の中心部にあり、秋田駅より徒歩約 15 分の所にあります。診療圏は秋田市を中心として、県内全域に及び、救急医療や脳神経外科、心臓血管外科などの高度専門医療を行い、一方では、地域に密着してプライマリ・ケアや生活習慣病に対する医療、がん医療、高齢者医療に取り組んでおり、総合的、全人的な医療の実践を目指している病院です。病床数は一般病床 346 床、ICU8 床、救急病床 8 床、地域包括ケア病床 52 床を有しております。

リハビリテーション部門は医師 2 名（脳外科医、整形外科医）、PT29 名、ST5 名、OT19 名所属し、リハ基準としては脳血管 I、運動器 I、廃用 I、呼吸器 I、心リハ I、がんリハを算定しています。

入院では急性期の脳血管障害や神経難病、糖尿病や内部



訓練室

障害に付随する廃用症候群,頸部から上肢にかけての整形疾患,がん疾患,循環器疾患等,総合病院ならではの様々な疾患が対象となります。また,2022年9月よりICUにおける早期離床加算の算定を開始し,より充実したチーム医療に関わっています。外来では手外科を中心とした運動器疾患が大半を占め,その他進行性の神経難病,疾患別リハ期限内の脳血管,廃用症候群となっております。



スプリント

脳血管疾患では昨年度あたりから自動車運転に関する評価処方が増えており,自動車運転シミュレーターが必要な場合は同法人の中通りハビリテーション病院に紹介するなど,協力を頂き対応しています。

運動器疾患においては,当院に手外科の Godhand 千馬医師が在籍していることもあり,手外科に関わる医師も多く,骨折,腱損傷,切断など,術後早期からのハンドセラピーや個別性に合わせた装具の作製や工夫,SW-testの対応,難事例に対する治療,スポーツ障害等,求められる課題も多いですが専門性を活かして対応しております。

慌ただしい毎日ではありますが,私たちは,様々な疾患と向き合いながら,在院期間が短い中でも患者さんの状態にあったより良い治療を提供できるよう,知識,技術の習得にむけ努力しております。また,病棟で行われるカンファレンス等にも積極的に参加し,医師や看護師をはじめとする他職種との連携も心がけ奮闘しています。



ここ数年,コロナ禍であったこともあり,他院所との繋がりも薄くなってきているように感じます。作業療法士として同じように悩み,考えながら患者さんと向き合っている県士会の皆様とも意見交換や情報共有が出来ればと感じております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします(*^-^*)

印象記

臨床指導者講習会に参加して

～自身の反省と未来のOTを指導するために必要なこと～

秋田県立医療療育センター 近藤多恵

2023年11月に臨床指導者講習会に参加いたしました。「画面を見つつPCへ打ち込みつつ会話」という,慣れない同時処理作業で必死に受講した2日間はあっという間で,大変有意義な講習会でした。僭越ではございますが,講習会に参加して思ったことを5つ述べさせていただきます。

第一に「今まで関わってきた実習生へ適切に指導ができていなかった」という反省です。伝えようと,私がただただ話すのみで,ティーチングとコーチング,基本的態度・臨床技能・臨床思考過程,見学・

模倣・実施等をあまり意識できていませんでした。今後は、コーチングでどのように実習生の考えを引き出せるか、段階を踏んで技能習得につなげることができるかを考えていきます。そのために、私が知識や技能を学び、医療職としての社会性を高めていく必要があると再確認しました。

第二に「実習で学んでほしいことをディスカッションの中で共有できた」ことです。自分が実習生に伝えたい、見せたいと思っている臨床現場を他の OT の先生方も同じように考えていたということが知れて、励みになりました。教科書では学べない患者さんの様子や特徴、多職種の中で OT の役割等を意識して、様々な疾患の方に触れることやカンファレンスの見学などの場を今後も多く作っていきます。特に当センターは小児施設で支援学校とも隣接していますので、教育現場と OT の関わりについても学んでほしいと思います。

第三に「小児施設において、参加型臨床実習でどのように MTDLP を活用していくか」です。恥ずかしながら、MTDLP は学校や基礎研修で学んだものの臨床現場ではあまり意識できていませんでした。今後は臨床で活用しながら、実習生の指導にも活かしていきたいです。

第四に「学生自身への理解が足りていたのか」という点です。コロナ禍や家庭環境の変化・価値観やコミュニケーション方法の変化は、当センターにくる子どもたちと関わる中で感じていました。講習会のディスカッションで同じような環境で学生たちが悩んでいるという状況を把握できたことで、実習生への理解が深まったように思います。「自分の常識は他人の非常識」という言葉がありますように、私の考えに限らず、実習生の考えや感情を理解することを目指して指導していきたいと思えます。

第五に「私の実習を受け持ってくださいだったバイザーの先生方への、感謝と申し訳ないという気持ち」です。私は出身校や実習施設も九州のため、当時の先生方は秋田県士会にいらっしやいませんが、レポートの書き方から、生活面や社会人としての振舞い方まで、教えてくださいました。思い返せば非常識な問題学生でしたが、最後まで指導してくださったことを感謝しています。おかげで九州から秋田に飛んで、OT として働くことができいております。

最後に当センターで実習を経験した方々にお伝えしたいことがあります。それは子どもたちが、実習終了後も学生のことをよく覚えているということです。「〇〇さんはどこにいる?」「□□さんと一緒に練習したよ」等の言葉を子どもたちから聞くことがあり、子どもたちにとって実習生と一緒に行ったリハビリテーションは大切な思い出となっています。そして、これから来る実習生のことも心待ちにしています。

講習を受けて実習生指導だけではなく OT としての考え方や立ち振る舞いを振り返ることができました。今回学んだことを今後の業務に活かしていきます。指導して下さった先生方、一緒にディスカッションをさせていただいた先生方、お世話になりました。

最後までお読みいただきありがとうございます。

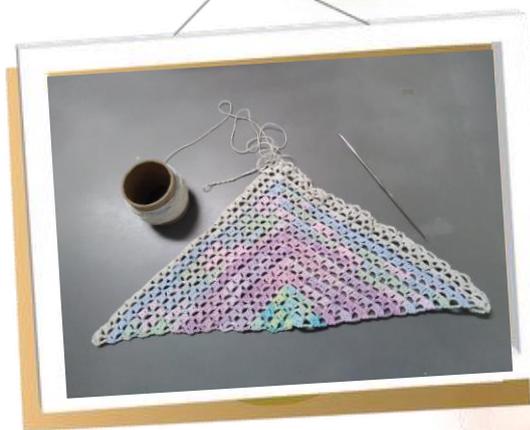




みんなで語るべ ～日々の楽しみ方～

語り手:東台病院

あまり賭け事に興味はなかったのですが、患者様と一緒に麻雀で卓を囲み打つようになりました。患者様らの腕前は手牌に大三元を積み込む現役さながらの技を披露する方もいれば、老眼で牌が見えず面子を作れなくなってきた方もいます。「振っても命まではとられないから」と患者様らにからかわれながら勝敗抜きで皆さんと楽しく勝負しています。



私が最近やってみたことは、仕事でも触れる機会の多いレース編みです。産休、育休の時間を利用して始めましたが、編み図が読めるようになるとこれがまた楽しい！ただまだ初心者なので子供に編んだ帽子は小さすぎてかぶる前にサイズアウト（笑）。患者さんとの活動にも生かすことができるので、やってみて良かったと思います。

企画案内『みんなで語るべ～日々の楽しみ方～』

- ・内容：日々の中での楽しみ方や仕事の一場面、最近やってみた事等。
- ・文字数：140字～160字 ・写真：1枚
- ・施設名のみ掲載させて頂き、原稿執筆者の名前(イニシャル含む)は掲載しません。1回の発行につき、2～3名にご協力頂きたいと思っております。

県士会への異動届をお忘れなく！

今年度も残すところ1カ月余りとなりました。4月から新天地で頑張ろうと決断した会員の皆様もいる事と思います。県士会では会員の把握のため届け出をお願いしております。職場内でお声をかけあって頂き、届け出忘れが無いようよろしくお願い致します。



(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号



株式会社

千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子

リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyugishi.co.jp>

編集後記

今年は降雪が少なくほっとしていたところでしたが、新年早々、能登半島沖地震の発生や JAL 旅客機と海上保安庁の機体が接触する事故などのニュースが飛び込んできました。この度、被災された方におかれましては心よりお見舞い申し上げます。一日も早いご再建をお祈りしています。

私自身、東日本大震災を思い出し、改めて防災グッズの検討やハザードマップの確認など、見直すきっかけとなりました。皆さんはどのような防災対策をされているでしょうか？

また、近い将来大きな地震が日本列島を襲うとも言われています。出来る範囲での対策をしていけたらと思います。

今年度も残すところ1ヵ月程となりましたが、感染症、災害などに気を付け新年度を迎えたいと思います。(koma)



秋田県作業療法士会